

【法人の概要】

代 表 者 名		理事長 原田達		所 管 部 (局) 課		農政部畜産課	
所 在 地		山梨県北杜市小淵沢町大平10061		電 話 番 号		0551-36-3200	
ホームページURL		https://www.yatuboku.jp		E-mail アドレス		yatuboku@io.ocn.ne.jp	
資本金 (基本財産)		10,000 千円		設 立 年 月 日		昭和52年3月23日	
主 な 出 資 者 等	出資順位	出資者名等				出資額	出資比率
	1	山梨県				10,000 千円	100.0 %
	2					千円	0.0 %
	3					千円	0.0 %
	4					千円	0.0 %
	5					千円	0.0 %
	6					千円	0.0 %
	7					千円	0.0 %
	8					千円	0.0 %
	9					千円	0.0 %
	10					千円	0.0 %
	出資その他	団体 (者)				千円	0.0 %
その他					千円	0.0 %	
					10,000 千円		
設 計 経 緯 概 況 等	立 的 経 緯	設立目的: 山梨県の子牛の生産、育成を振興し、もって畜産の安定発展に寄与すること。					
		経緯概況等: 県営ハケ岳牧場は、条例に基づき県の肉用牛生産基地として、肉用牛繁殖育成事業を行ってきた。 昭和52年: (財)山梨県子牛育成協会が設立され、協会は県から牧場管理業務の一部を委託された。 昭和60年: 県営ハケ岳牧場から、県立ハケ岳牧場と改称し、協会は県から牧場の管理業務を全面委任された。 平成5年: 県立まきば公園と天女山分場整備に伴い、協会は県からまきば公園の管理業務を委託された。 平成12年: 堆肥化処理施設の稼働により、堆肥の販売を開始。 平成13年: 周年預託業務を開始。 平成18年: 県立ハケ岳牧場、県立まきば公園の指定管理者と指定され、これまで継続。 平成23年: 公益財団法人に認定された。					

【主要事業の概要】

主な事業名		内容	事業費(単位:千円)		
			令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業1	ハケ岳牧場管理受託業務	県有肉用繁殖牛の飼養、生産子牛の育成及び売却 農家有家畜(牛・馬)の周年受託業務 草地等の維持管理業務、農家の巡回調査指導業務 肉用牛の改良増殖業務、家畜排泄物処理業務等	193,615	211,877	191,171
事業2	まきば公園管理受託業務	めん羊(サフォーク種)の増殖業務及びふれあい動物の飼養管理 公園施設、草地、植栽の維持管理 来園者の対応、各種イベントの開催	17,830	18,270	17,656
事業3					

【組織】

年度		令和4年度					令和5年度					令和6年度				
		職 員 数	プロ パ ー 員	県 職 員 派遣	県 職 員 兼 務	県 O B	職 員 数	プロ パ ー 員	県 職 員 派遣	県 職 員 兼 務	県 O B	職 員 数	プロ パ ー 員	県 職 員 派遣	県 職 員 兼 務	県 O B
各年度体制																
役員等	理事(常勤)	1				1	1				1	1				1
	理事(非常勤)	8			2		8			2		8			2	
	監事(常勤)	0					0					0				
	監事(非常勤)	2				2	2				2	2				2
	評議員	5				5	5				5	5				5
計		16	0	0	2	1	16	0	0	2	1	16	0	0	2	1
職員	管理職	1	1				0	0				0	0			
	一般職員	19	19				20	20				21	21			
	臨時職員	4				4	3					2				2
	非常勤職員	0					0					0				
	計	24	20	0	0	0	23	20	0	0	0	23	21	0	0	0
令和6年度 プロパー職員の 年齢構成 (令和7年4月1日現在)		年齢	～20	21～30	31～40	41～50	51～60	61歳以上	合計			平均年齢			平均年収	
		男性		4	4	5	1	3	17	役常 員勤		※			(千円)	
		女性	1	1	1		1		4	職常 員勤		※			(千円)	
		合計	1	5	5	5	2	3	21			41			4,534	

※個人の年齢、年収が容易に推定できるため不記載

【経営の状況】

(単位:千円)

項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	増減
基本財産等運用益	47	47	47	0
受取会費・受取寄付金	0	0	0	0
受託事業収益	215,073	233,756	233,173	△ 583
自主事業収益	53,384	58,936	55,481	△ 3,455
受取補助金等	0	0	0	0
その他の収益	1,595	1,304	819	△ 485
経常収入 計	270,100	294,043	289,520	△ 4,524
事業費	260,533	286,467	280,636	△ 5,831
うち人件費	136,055	140,983	136,120	△ 4,863
管理費	11,323	11,550	11,098	△ 452
うち人件費	9,754	9,587	9,480	△ 108
経常支出 計	271,856	298,017	291,734	△ 6,283
当期経常増減額	△ 1,756	△ 3,974	△ 2,214	1,760
経常外収入	0	0	0	0
経常外支出	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 1,756	△ 3,974	△ 2,214	1,760
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0
正味財産期末残高	119,811	115,837	113,623	△ 2,214

(単位:千円)

項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	増減
流動資産	51,809	58,559	47,492	△ 11,067
固定資産	133,785	132,891	130,975	△ 1,916
資産 計	185,594	191,450	178,467	△ 12,983
流動負債	41,998	54,752	39,070	△ 15,682
うち短期借入金	0	0	0	0
固定負債	23,784	20,861	25,774	4,913
うち長期借入金	0	0	0	0
負債 計	65,783	75,613	64,844	△ 10,769
正味財産	119,811	115,837	113,623	△ 2,214
うち基本財産への充当額	10,000	10,000	10,000	0
うち特定資産への充当額	54,439	61,621	59,490	△ 2,131

(単位:千円)

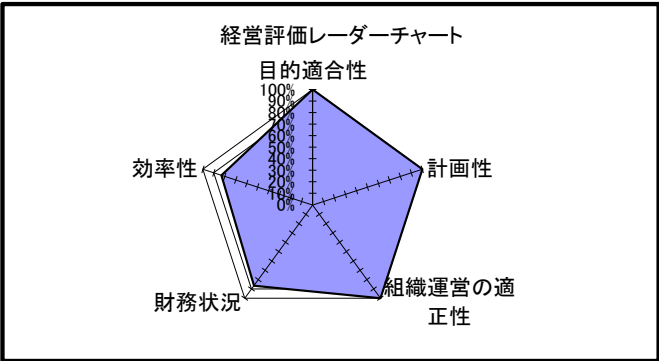
項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	増減
負担金	0	0	0	0
人件費補助金	0	0	0	0
人件費以外の補助金	0	0	0	0
運営費補助金	0	0	0	0
事業費補助金	0	0	0	0
補助金 計	0	0	0	0
人件費委託金	136,056	140,983	136,120	△ 4,863
人件費以外の委託金	79,017	92,773	97,054	4,280
委託金 計	215,073	233,756	233,174	△ 582
県支出金 計	215,073	233,756	233,174	△ 582
県の財政的関与の割合(%)	79.6	79.5	80.5	1.0
県貸付金残高	0			0
県債務負担実際残高	0			0

【県の財政的関与の状況(令和5年度)】

項目	内容・目的・金額
負担金	該当なし
補助金 (運営費)	該当なし
補助金 (事業費)	該当なし
委託金	県立ハケ岳牧場管理委託費…農家家畜を受託管理するとともに、県有牛を改良増殖・供給し、本県の畜産振興に資する。(R5委託料:191,171千円 R5:追加委託料20,781千円) 県立まきば公園管理委託費…自然の中で動物とのふれあいの場を提供し、県民の畜産への理解を深め、県民の保健休養に資する。(R5委託料:17,656千円) 死亡牛焼却処理業務委託費…西部家畜保健衛生所より県が行う牛海綿状脳症(BSE)検査後の死亡牛の受入及び焼却処理業務を受託(R5委託料:3,564千円)
県債務負担 実際残高	該当なし

【自己評価・評点集計】:(経営評価算出表により、法人自らが評価した結果を記入)

評価の視点	評価ポイント	評価項目数	満点	評点	得点率
目的適合性	出資法人が当初の設立目的あるいは公益目的と適合した業務を行っているかを問う視点	3	10	10	100.0%
計画性	出資法人が長期的ビジョンを持って計画的に事業運営に取り組んでいるかを問う視点	3	10	10	100.0%
組織運営の適正性	組織・人事・財務等の内部管理体制が適切に整備、運用され、かつ情報公開による透明性の確保が適切であるかを問う視点	3	10	10	100.0%
財務状況	出資法人の経営の安全性や収益性を問う視点	7	44	38	86.4%
効率性	出資法人の組織の管理運営上における人的・物的な経営資源が有効活用されているかを問う視点	5	18	15	83.3%
合 計		21	92	83	90.2%



【警戒指標数】

目標達成度	
正味財産増減	
流動比率	
借入金依存率	
債務超過	
県の将来負担見込	
回収不能債権	
県の債務処理補助等	
公益認定基準抵触	

【出資法人の自己評価】:(各評価の視点毎に、法人自らによる分析・検証の結果及び対応策を記入)

目的適合性	県立八ヶ岳牧場では、農家家畜の受託管理並びに県肉用繁殖牛の改良及び子牛の売却等の事業を通して、本県の畜産振興に寄与している。特に農家家畜の受託管理においては、飼料価格等の高騰が畜産農家の経営を圧迫する中、目標頭数(120,000頭)を大幅に上回る135,181頭を受託し畜産農家の経営を支えた。一方、県立まきば公園では自然や動物とのふれあいを通じて、県民等に憩いの場を提供するなど、指定管理者として基本協定に基づき業務を適正に行っている。コロナ禍で中止していたイベントを完全開催するとともに公園の利便性を向上させるための整備に取り組むなど、施設の目的が達成できるように環境を整えている。
計画性	年度ごとに定める事業計画に基づき効率的に事業を運営するとともに、計画と実績を比較分析する中で業務・経営の改善に努めている。今後は、飼料費などの急激な価格変動に加え、段階的に定年年齢が引き上げられる中での職員数の管理や賃金アップが進む中での人件費の抑制など、多方面に注意を払いながら安定した経営に努めていく必要がある。
組織運営の適正性	段階的な定年延長を考慮する中で、過不足が生じないように職員の確保を図っている。また、定期的な人事異動や研修による職員の資質向上、定期的なミーティングによる情報共有とモチベーションの向上などにより、組織力の強化に努めている。事業計画や事業報告、財務状況などをホームページで公開し透明性の高い運営を行っている。
財務状況	飼料価格等の高騰により、預託事業において費用が収入を大幅に上回る状況が続いている。県から価格高騰による費用の増加を補填するための追加委託料を受け収支のバランスを保っているが、令和5年度は想定外の修繕が生じたため2,214千円の赤字となった。物価高騰の影響を最小限に抑えるため、自給飼料の安定確保に努めるなど、法人としてできる対策を着実に進めていくことで収支状況を改善していく必要がある。
効率性	計画的な人員管理により人件費の抑制や管理費の節減などにより効率的な法人運営を進めてきた。職員一人当たりの施設等利用人数については、県立八ヶ岳牧場の農家家畜の延べ受託頭数は高水準であったが、県立まきば公園の入園者数は夏休み期間中に集中豪雨の影響で八ヶ岳横断道が2週間通行止めになったことや、年間を通して週末に天気が崩れることが多かったことにより前年比で大幅に減少した。
総合的評価	優良素牛の売却等により甲州牛の生産基盤強化に寄与するとともに、飼料価格等が高騰する中での受託家畜の受入増加、繁殖管理の充実等により畜産農家の経営安定に大きく寄与してきた。一方、まきば公園においては、天候等の影響で利用者が減少したが、ホームページ等を通じた情報発信やコロナ禍で中止したイベントの完全再開、利便性を高めるための施設整備などの取組を進めることで、施設の目的達成に向けた管理運営を進めている。



対応策	八ヶ岳牧場業務については、今後も飼料価格等の高騰などの影響を受けることが想定されるので、価格動向を注視するとともに自給飼料の安定確保や更なる経費節減に努める中で、経営の安定化を図っていく。また、性選別精液や受精卵移植の活用などの繁殖技術や飼養管理技術の向上を図り、利用者のニーズに合った質の高いサービスを提供していく。まきば公園については、園内美化の徹底、イベントの積極的開催などにより利用者の満足度を高めるとともに、近隣施設と連携した情報発信により利用者の拡大を図っていく。
-----	--

【法人担当部局の所見】:(法人所管部局による各評価の視点毎の分析、評価)

目的適合性	本県における大家畜の畜産振興を推進するため、県条例並びに協会設置目的に従い、適切に受託事業等を実施しており、目的に適合している。 指定管理を行う県立八ヶ岳牧場では、農家家畜の受託において、目標頭数を大きく上回る頭数を受け入れ、飼料価格をはじめとする物価高騰により経営が逼迫する県内畜産農家の要望に応えていることは評価できる。まきば公園についても、基本協定に基づいた業務が適切に行われているが、SNS等を活用した積極的な広報活動等により、さらなる来園者数確保に継続して取り組む必要がある。
計画性	経営計画・年次計画に基づいて、適切に管理運営が行われている。また、事業分析により業務改善に努めており、今後も適切な管理運営を継続する必要がある。
組織運営の適正性	組織運営とリスク管理に必要な体制整備が行われ適切に運用されている。事業活動内容や財務状況もホームページにて公開されている。引き続き、業務上のリスクの共有・対応方法の定期的な検討や、法人事業・イベント等の積極的な情報発信、適正な組織運営に努める必要がある。
財務状況	飼料や肥料をはじめとする物価高騰の影響や想定外の修繕の増加により、正味財産増減額は3期連続のマイナスとなっているが、借入金はない状況である。引き続き飼料等の価格動向を注視しつつ、自給粗飼料の安定確保や経費削減に努め、収支状況の改善に取り組む必要がある。
効率性	まきば公園の来園者数が減少したことにより、職員1人当たりの施設等利用人数は減少したが、八ヶ岳牧場の受託頭数は高水準であり、効率的に業務が行われている。今後は、まきば公園の来園者数確保に向けて、積極的な広報活動等に取り組む必要がある。
総合的評価	設立目的に沿った事業を実施しており、適切な法人運営が行われている。 長引く物価高騰等の影響で畜産農家の経営が苦しい中で、八ヶ岳牧場では農家の要望に応え多くの農家家畜の受託を行い、畜産農家の負担軽減を図る公共牧場としての役割を果たしていることは評価できる。 一方で、法人の収支は、正味財産増減額が3期連続のマイナスとなっていることから、自給粗飼料の安定確保や一層の経費削減に努め、収支状況の改善に取り組む必要がある。

【総合評価】:(経営検討委員会による総合評価)

総合評価 ランク	A 得点率 90.2 % 警戒指標数 0 A 得点率80%以上かつ警戒指標なし B 得点率70%以上80%未満または警戒指標が1 C 得点率60%以上70%未満または警戒指標が2 D 得点率60%未満または警戒指標が3以上
総合的所見	・令和5年度は、八ヶ岳牧場における家畜の受託頭数は目標数値を上回っているものの、豪雨に伴う道路通行止めの影響を受けてまきば公園の入園者数が減少となったことが影響し、職員1人当たり施設等利用人数が減少し、効率性の評点が低下した。 ・一方、財務状況は、飼料等の物価高騰の影響や設備修繕の影響を受けたものの、流動負債の減少などに伴う流動比率及び自己資本比率の上昇等がみられ、また当期一般正味財産増減額の赤字は前年度よりも減少しており、評点が上昇している。 ・引き続き、自給飼料の安定確保やさらなる経費削減に努めることが望まれる。また、今後も畜産農家の経営安定を図るとともに、甲州牛の生産基盤強化に努めるなど、本県の畜産振興に寄与することが期待される。



【総合評価に対する今後の対応方針】

・八ヶ岳牧場については、飼料価格等の高騰等により支出が収入を上回る状況が続いている。今後も物価高騰の影響を受けることが想定されるが、自給飼料の安定確保や経費節減に努めることで経営の安定化を図る中で、積極的な事業展開に取り組んでいく。

・まきば公園については、イベントの開催や近隣施設と連携した広報活動などを引き続き実施することで、利用者の増加を図っていく。